

ほんのしるべ

青標

2016 .
3月号

2016年3月5日発行（毎月1回5日発行）
通巻448号 昭和61年7月15日第三種郵便物認可



ロシア ウラジオストク ドムクニーギ

ノセ事務所

能勢 仁



ウラジオストクは東京から意外に近い。沖縄より少し飛ぶという感じで、約四時間で着ける。ロシアの極東重点都市なので軍事施設が多いが文化施設はその次という街だった。

市内に書店の数は少なかった。一ドムクニーギ ニカントハリー 三クロバーハウス 四 露店しかなかった。ここで紹介するのはドムクニーギである。

以前にもサンクトペテルブルグのドムクニーギを紹介したが、一九九〇年以前は国营だったから、書店名はすべてドムクニーギ（ドムニ家 クニーギニ本）であった。今は皆民営なので、同じドムクニーギと言っても経営は別々である。

ウラジオストクのドムクニーギは、細長い建物を三区分して売場になっている。各部屋五十坪の売場は連続している。立地的には街の中心から少し離れているが、商業地

の延長線上にあることは確かである。

第一の売場は教科書、副読本、教科書付随問題集である。ロシアは社会主義国家だが、教科書は無償ではなく、親の大きな負担になっている。しかし教科書関連書籍の売れ行きは良いと書店員は言っていた。第二売場は文具、絵本、こどもの本、辞書、ギフトコーナーであった。この売場にはアドヴァイザーの女性が常駐していて、読者の相談にのっていた。教育に関心の強いお母さんが多く、アドヴァイザーは忙しそうであった。第三売場は専門書売場で、厚い本ばかりで圧倒される。コンピュータ、情報、経済、マーケティング、財政、法律、権利、哲学、心理、法令集、図形、知的障害などである。

この店は、高齢者に対して三%の割引販売をしていた。また四割引きのバーゲンコーナーもあった。

— ふきのとうには雌花と雄花がある。知っているか。

— 高堂は私の手にあるふきのとうに目を落としながら云った。

— 知らなかった。

— 小菊の寄り集まったようなのが雄花、黄緑の蕾の集まったようなのが雌花だ。

— ほう。

— 確かに二種類あった。

『家守綺譚』

梨木香歩著（新潮社）より



もくじ

世界の本屋さん 51

「書標」歳時記（3月）

著書を語る ① 「円山町瀬戸際日誌」を上梓して

内藤 篤 2

書標・書評 『ログスの市』ほか

特集 街・花街・虹色の街

応援！ お仕事女子！

今月のおすすめ

コンピュータ	17	自然科学	18
医学書	19	社会科学	20
人文科学	22	文学・文芸	23
文庫・新書	24	芸術	25
実用書	26	地図・旅行書	26
語学・辞典	27	児童書	28
読者から	29		
インフォメーション	30		

※表示価格はすべて本体価格です。

『円山町瀬戸際日誌』を上梓して

内藤 篤



シネマヴェーラ渋谷という名の名画座を渋谷円山町にオープ

ンさせて十年がたち、その節目を記念する意味で、本を出さないかというオファーをいただいたのが、二年ほど前のことだったか。劇場のオープン同時に東京大学出版会のPR誌に、弁護士という職にありながら、いわゆる二足の草鞋で映画館経営に乗り出した、その日々のよもやま話を「円山町瀬戸際日誌」との題で連載させてもらったことがあり、その際の編集長らが独立して作った出版社からのお話だった。その意味では、元となる原稿があったわけだが、それだけでは到底ひとつの本となるだけの分量にはならないので、二〇一四年から二〇一五年にかけての続編的なよもやま話を書き足して、一つの本としたのである。瀬戸際日誌という題に象徴されるように、良好な客人りとほとんど無縁の、あぶなつかしい劇場運営の記録なわけである。そうしたわけで、連載部分は二〇〇六年から二〇〇九年までの「日誌」であり、書き下ろし部分は二〇一四年から二〇一五年の通年の「日誌」となるが、自転車操業にも比肩しうる、そうした日々の記録だから、こうした場で胸をはって語れるような「哲学」も「美学」もないのだ。ただ、今読み返して若干の感慨がなくもないのは、拙著は凶らずして、この十年の渋谷の

映画館の変遷を記録している点である。

映画興行史的視点からいえば、渋谷という街は一九八〇年代から九〇年代を頂点として、いわゆるミニシアターのメッカであった。映画の黄金時代においては、東宝や松竹といった邦画のメジャーが、いわゆる系列館を通じて興行を仕切っていたのが、映画の衰退を受けて、そうした結びつきは徐々にほどけてゆくが、それでも配給チェーンというものはしぶとく生き残っていた。それが一九八〇年代に入ると、従来の大手の配給会社が配給する映画へのカウンターカルチャーとして、主にアート系映画の輸入が盛んになり、そうした映画の受け皿としてミニシアターが登場したわけである。その草分けの一つが渋谷の桜丘にオープンしたユーロスペース（一九八二年開館）だった。そしてユーロスペースを追うように、シネマライズ（一九八六年開館）、シネアミューズ（一九九五年開館）といったミニシアターが渋谷にオープンしていく。だがそうした流れが逆回転を始めるのが、二〇一〇年前後である。渋谷シネ・ラ・セット（二〇〇八年閉館）、シネセゾン渋谷（二〇一一年閉館）、シネマ・アンジェリカ（二〇一一年閉館）、一時は三スクリーンあったシネマライズは二〇一〇年に一スクリーンのみとなり、

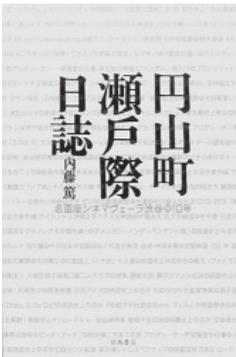
二〇一五年について閉館した。シネマヴェーラ渋谷のオーブンは二〇〇六年一月なので、そこからの十年はまさに、渋谷ミニシアターの終焉をみとる過程だ。

人後に落ちない映画マニアゆえに、筆者は自分の劇場のみならず、映画館にはしげく通うのである。実際、拙著で記述されるのは、鈴木則文監督の特集を夢想している折り、アミューズCQNにて偶然に同監督と出会ったエピソードであったり、『パブリカ』(今敏／二〇〇六年)を観た翌日にシネセゾン渋谷で『悪夢探偵』(塚本晋也／二〇〇六年)を観て「夢ダイブ」つながりだなどと喜んでみたり、シネマート六本木で香港映画を観て客入りの悪さを嘆いてみたり、ミニシアターではないが渋谷東急に(自分の劇場で上映中の映画をソデにしてまで)ロバート・アルトマン特集やダグラス・サーク特集を観に行くエピソードであったりといった具合である。こうした映画館の多くが、今はなくなっている事実が暗澹たる思いを禁じ得ない。ミニシアター衰退の原因は複合的なものであるが、大きくはシネコンの都心部への進出にあるうかと思われる。従来であればミニシアターでかけられていた類のアート系映画が、多映画消費体質のシネコンに奪われていったのである。

上映形態の大変換も、拙著の通奏低音のひとつだ。二〇一二年あたりを境に、映画館で上映される新作映画はことごとくデジタル素材にとつてかわられた。いわゆるデジタルシネマの時代になったのだ。これは、観客としてはほとんどその変化を体感することはできないのだが、本質的なところで興行を塗り替える現象である。たとえば、映写装置をデジタル方式のものに買い替える資金を持たない上映館は、この時期、廃業に追い込

まれている。さらにシネマヴェーラ渋谷のような名画座にとつての脅威は、日本全国から三十五ミリ上映施設をもった映画館が「瞬間蒸発」してしまつたことに伴い、大手邦画各社が旧作映画(当然ながら、それらはほとんどが三十五ミリである)の配給を停止してしまわないか、という懸念である。三十五ミリプリントは、重くかさばるし、保管に費用がかかる。もしも、それを持つていても、我々ひとにぎりの名画座しか買ひ手がつかないようなら、三十五ミリ配給ビジネスから手を引きかねない。そこまで来ると、観客にも変化が分かるだろう。でも、そうなつたら手遅れなのだ。

読んでいただければ分かるが、拙著は基本的には、ノートンキナエッセイにすぎないのだが、この十年の映画上映風景を描写した結果、意図せず映画上映の危機を描くこととなったようである。映画を愛するアナタにも、その危機感を共有してもらえれば幸いだ。



『円山町瀬戸際日誌』
羽鳥書店・2,400円



『ロゴスの市』

乙川優三郎著

徳間書店・一五〇〇円

昭和五十五年。大学のサークルで出会った二人の男女は、翻訳家と同時通訳を目指す。氣立てのいい弘之と氣風のいい悠子は話が合い、誰からもお似合いの恋人同士、将来をともしにする二人に見えた。

弘之の押しの弱さにちよつとやきもきしながら、言葉と格闘する若者の成長を樂しめる恋愛小説。主人公・弘之は奔放な悠子の姿を美しく語り、愛情に凭れることなく、さらに言葉を磨くために単身アメリカへ飛び立つていく悠子の姿を見守るが、その奔放さに忍び寄る影があった。弘之も読者もそれに薄々気づいているのだが、踏み込む隙を悠子は与えてくれない。とにかく忙しく、素っ氣ないのに色っぽいのだ。

翻訳と通訳では、言葉との関わりが異なる。弘之はほんの一文に悩みぬき、夜更けに壁を仰いで思う。「学んだ記憶のない言葉なぜ知っているのか」それが母語というもの、何気ない言葉によって文章が生きてくる。遠い世界を丸ごと運んでくれる言

語を相手に自分と闘うしかないのが翻訳。「何者か知れない人を相手に準備を尽くし、礼儀正しく戦うストリートファイターのようなもの」と過酷な同時通訳の仕事は悠子は弘之に嬉々として語っていた。

そんなきらめく日々の中、別れは突然訪れた。避けられない選択を迫られた二人。別の家庭を持ち、恋慕を振り切るように仕事に没頭し、成果を挙げる。

転がる人生の果てに「ロゴス」が待つなら、それもいい。でも、選べなかった人生を想い、悲しみが残る。(と)

『有限性の後で』

カントン・メイヤス著 千葉雅也他訳

人文書院・二二〇〇円

カントが、科学法則を担保するのは世界の法則性ではなく人間悟性の側の形式であると主張して以後、西洋哲学は世界や事実と人間の「相関」の考察にのみ注力して来た。だが、例えば宇宙や生命の誕生など人類がこの世界に現れる遠か以前の出来事、或いは人類絶滅以後の世界についての言説は、〈相関主義〉の思考において如何にして成立し得るのか？

かかる問いかけを引つ提げて、メイヤスは〈相関主義〉の乗り越えを図る。

その乗り越えは、〈相関主義〉を無視して進むものではなく、その豊饒な議論を引き受けながらの中央突破であるから、端緒の疑問は比較的取っ付き易いものの、その後の展開は、著者も読者も長く険しい苦難の道行きとなる。

本書におけるゴールは、「世界は別様にもありうる」ことが〈相関主義〉を含む思考そのものの絶対的条件であり、世界が「かくある」という〈事実性〉は疑えないが「かくある」ことの偶然性は必然的」である、というテーゼである。

カントの「コペルニクスの転回」は実は「ブトレマイオスの転回」であった。〈相関主義〉は、〈信仰主義〉に意外に近く、いかなるイデオロギーをも是認せざるをえない。議論の途上で現れるこれらの指摘は面白く、説得力もある。

だが、人類誕生以前／絶滅以後の世界の記述を成り立たせるといふ数字も、或いはそれらの記述そのものも、人間の実践ではないのか？ 即ちメイヤスの辿り着いたテーゼは、真に〈相関主義〉の乗り越えになつていいのか？

『有限性の後で』の後で、改めてそれが問われなければならないと思う。(つ)

『ほめると子どもはダメになる』

榎本博明著 新潮新書・七二〇円

書名から想像するとどうしても教育関連書や子育て本をイメージしてしまいが、今の日本の問題点を明確に指摘しており、子育てに関係なく全ての大人に関心を持ってもらいたい内容です。

著者の主張が全て正しいとは言いきれませんが、簡単に成否の判別ができるものではない事柄だとは思いますが、次の世代へきつちりバトンを渡す為にも一度立ち止まって真剣に考える必要があるように思います。

文化の文脈を考慮せずに異文化のやり方をむやみに取り入れると、せっかく機能していたしつけが機能しなくなる可能性がある、というくだりがありますが、しつけに限らずあらゆる物事に置きかえられるのではないのでしょうか。情報が簡単に入手できる分、その背景への考慮が希薄になっているようにも思います。

自身自身二人の子を持つ親ですが、常に試行錯誤の繰り返しです。この本を読んで領くところもあれば、沈思することもありました。子育てには答えも無ければやり直すこともできません。でもそれは自身の人生も同じ。一番共感できた言葉は『どんな状

況でも遅く突き進み、自分の道を切り開いていける力をつけさせて世の中に送り出すこと。』でした。

実践あるのみです。

(風)

『ユーロ危機とギリシャ反乱』

田中素香著 岩波新書・八二〇円

二〇〇九年十月、ギリシャの総選挙で成立したパバンドレウ政権は、前政権が発表していた財政赤字の数値が虚偽であることが暴露。巨額の政府債務が明るみになったことでデフォルトの不安が広がった。自国の経済力を無視したデタラメな年金制度や賃金制度を維持するため財政赤字の拡大を抑制できなくなっていた。デフォルトの懸念は政府債務の多い他の南欧諸国にも広がった。

しかしながら、危機を生み出す原因を作ったのは、ギリシャ財政の放漫さは勿論のこと、野放図に信用を与え続けてパブルを作り出し、リーマンショック後、自らの危機に一気に資金を引き上げたドイツなど主要国の大銀行の貸手責任にもあるという。強いマルクを放棄する代わりにドイツ連銀が中心となって制度設計され、欧州中央銀行(ECB)による国債の直接購入禁

止等、各国の自己責任原則の強い従前のユーロ制度では危機に対応できず、新しく就任したECBのドラギ議長のもと制度のバージョンアップが図られ、危機は沈静化した。

著者は、ギリシャはあまりにも政府債務が大きいため債務の切捨てなど経済の自力成長のための支援が不可欠であり、さらにはユーロ圏内に財政移転システムを導入して南北格差是正に結びつくようなユーロ制度の更なるバージョンアップを図らない限り、危機は再燃しかねないという。自国民の負担を恐れて自己責任原則に固執しているドイツもユーロの導入で為替リスクがなくなるなど最大の受益者でもあるため、いづれ著者の構想するような方向に舵を切るかもしれない。

危機の前後にユーロ崩壊という表現が氾濫したが、著者は一貫してそのような立場に立たなかった。『賢明な』ヨーロッパ諸国民は紆余曲折を経ながらも連帯を強めて行くと考えているようである。

来年、ロシア革命から一〇〇年を迎えるソビエトロシアの壮大な社会実験は無残な結果に終わったが、もうひとつの実験の成り行きに注目したい。

(U)



色街・花街・虹色の街

三月に入ると徐々に暖かくなり、人々の動きも活発になってくる季節です。そうした時期にふさわしい……、かどうかは微妙なところですが、この三月の愛書家の楽園では「街」、そのなかでも「色」や「花」、そして「艶」といった言葉がつくようなところを、皆さまと一緒に捉え直してみようと思います。

最初にお断りしておきますが、今回の愛書家の楽園で選書した本（この後でその中の何冊かをご紹介しますが）を見ていくと、どうしても「男性の視点」「女性の視点」の差異を意識しないわけにはいきません（さらにはそのどちらでもない視点も）。筆者は男ですが、そのバイアスから自由になれているかという点、残念ながらそんな自信はありません。そう正直に告白しておきますので、この後の文章で、やっぱり「男目線」だよ、ね」と感じられるところが多々あるかと思いますが、少し大目に見ていただければ有難いと思います。

今回、選書で挙げた本を読んでみて、思い浮かんだテーマがいくつかあります。時代の推移、社会の変化、街の変遷、差別や貧困、そして先に述べた男性の視点・

女性の視点といったところです。これらに関連する本をご紹介します。思いますが、まずは、さまざまな属性をもつた多様な人たちが集まる場所に必須の出来事、男と女の出会いから始めましょう。

ボーイ・ミーツ・ガール、と表現するところと軽い感じになりますが、要は男と女が出会うところに何かが起こる。古今東西、映画やテレビドラマ、ミュージカルなども、ほとんどこの出会いから始まる。そして目を日本に向けてみると、古い文学作品や歌舞伎や落語の題材などには、廓などの、まさに男と女がさまざまなかたちで出会い・関係する場所が登場します。

そんな男女の機微を街の情景も含めて語ってくれる小説として、永井荷風『すみだ川・新橋夜話他一篇』（岩波文庫・七六〇円）と川崎長太郎『泡／裸木川崎長太郎花街小説集』（講談社芸文庫・一四〇〇円）を挙げておきましょう。前者の、特に「新橋夜話」は、その名の通り東京・新橋から銀座・京橋界限、後者は小田原の「宮小路」が舞台となっています。

どちらも短篇が集まったものですので、どこからでも読み進められます。個人的には、「新橋夜話」のなかの「色男」という話が好みます。ちよつと容貌が良い主人公が単なる「旦那」より上の存在になるうとある芸者さんを口説くのですが、成功したと思つたのが実は、うまくあしらわれてしまふ、なんとも滑稽な話です。荷風の心理描写も見事ですが、当時の街の様子や食べ物や小物などの細かな風俗が鮮やかに描かれ、本当に文章が巧みです。荷風の実力を改めて実感できます。

川崎長太郎の小説は、映画監督・小津安二郎と小田原芸者との関係が背景にある「小津のもの」と言われている作品が含まれています。小説中、川崎長太郎本人がモデルの人物はなんとも頼りなく、ここにもある種の滑稽さが漂っています。同じ男として、苦笑しつつ、でも笑えない、なんとも複雑な気分になります。こちららも街の描写はとも魅力的で、ぜひ読んでもらいたい一冊です。

色街・花街を描くときは、小説にしるノンフィクションにしる、やはり男性作

者のものが多くなります。いろんな作品がありますが、ノンフィクションやルポルターージュの場合、対象へ適切な距離感をとりつつも、それへの愛情みたいなものが感じられるものが好みます。そういうものは概して文章にも味わいが出ます。ここではおススメしたい男性の書き手による作品をまずは紹介しましょう。

東良三季さんの写真が印象深い装丁の、本橋信宏『鶯谷 東京最後の異界』（宝島社、現在は宝島SUGOI文庫・七八〇円）、同『迷宮の花街 渋谷円山町』（宝島社・一四五〇円）、そして、八木澤高明『黄金町マリア 横浜黄金町 路上の娼婦たち』（亜紀書房・二二〇〇円）、同『青線 売春の記憶を刻む旅』（スクラマガジン・一八〇〇円）です。

本橋さんの二冊は、いわゆる「風俗」に関する叙述がやや多いのですが、街の歴史も簡潔に押さえられていて、現代の色街・花街へ導く本としては適当なものです。（なお、選書リストには入れませんでした。鶯谷や円山町など、現代における風俗の背景を書いたものとして、坂爪真吾『性風俗のいびつな現場』（ち

くま新書）が最近刊行されました。貧困などにも絡んだ現代社会の難しい側面を見せてくれます。）

八木澤さんの二冊は、背景にあるもう少し複雑な街の歴史あるいは人間の闇というものを垣間見せてくれます。著者はカメラマンでもあるので、この二冊には随所に印象的な写真が組み込まれています（『青線』のほうは本文用紙と写真との相性が悪いせいか、せつかくの写真が不鮮明になっているのがちよつと残念）。特に『黄金町マリア』の外国人娼婦のなるとも言えない複雑な表情・姿の数々は文章以上に訴えかけてくるものがあります。HIVで亡くなり棺に入った女性の顔を見た時には、なんだろう、悔しさのような感情がこみ上げてきました。著者はある娼婦の方の本国にまで行って取材をしており、そこで貧困や背負わされている家族をめぐる問題は実に重いものとして目の前に現れてきます。街の向こう側にある世界を想像する力を持つておきたいと改めて感じます。

本橋さんの本で取り上げられた渋谷・円山町に関連するものとして、内藤篤『円山町瀬戸際日誌 名画座シネマヴェーラ

渋谷の10年』（羽鳥書店・二四〇〇円）も併せて読んでみてください。私が所属している東京大学出版会のPR誌『UP』に二〇〇六年から二〇〇九年まで連載されていたものとその後をまとめた新稿で構成されています。連載当初から話題になったものですが、弁護士である著者が映画館の館主となり、それにまつわるさまざまな顛末は実に面白い。映画の知識もつきますし、このような映画館が存在している色街の変化も考えてみたいところですよ。

八木澤さんの『青線』でも取り上げられている大阪の飛田新地。どんなところかはここで説明しません（できません）が（笑）、その飛田を扱って高い評価を得たルポルタージュが、井上理津子『さいごの色街 飛田』（筑摩書房、現在は新潮文庫・七二〇円）です。

ただでさえ取材が難しいかの地をこれほどまでに描き出した著者の取材力もさることながら、街に生きる人たちの姿、それも娼婦やそれに直接関係する人たちだけでなく、もっと多彩で、でもなんとなくどうしようもない人たちが描かれて

いて、これはやはり著者が女性であることとの強みというか視点の偏りのなさのかなと感じます。男性的なものへのツッコミなど、こちらも思わず苦笑してしまうところもあります。色街・花街を捉えるだけでなく、人間を捉えるのにも避けては通れない重要な一冊です。

ここまでご紹介した本を見てもらえればわかるのですが、男女を問わず、明も暗も含め、人間のバイタリテイという過剰なエネルギーが充満しているのも色街や花街の特徴でしょう。そうしたことを感じさせてくれる一冊に、酒井潔『日本歓楽郷案内』（中公文庫・八八〇円）があります。本のジャケットの袖には、「昭和初期のエロ・グロ・ナンセンスを主導した。」という名誉なのか不名誉なのかわからない著者紹介文が書いてありますが、文章はいたって軽快で、実に楽しい本です。

本書に解説文を寄せている下川耿介氏も指摘されていますが、本書第一章冒頭の文章、「モダン東京は轟々と成長した。それは破瓜期の処女がのびのびと美しく育まれるように、今はもう震災でベシヤ

ンコになった惨めな影はどこにもない。夜の街には恋の波が渦巻き、歓楽の焰が赤々と燃える。あらゆる華やかな装飾を施したモダン東京は、今やその体内から発散する異常な情熱で、若きプリマドンナのように輝かしく匂う。」とあるように、関東大震災の被害から脱却し、生きる喜びやエネルギーを発散する一つの表れが「エロ・グロ・ナンセンス」だった。なんだか戦後の坂口安吾の「墮落論」にも通じる文章のようにも感じます。色街・花街が生み出す悲喜劇は、生の過剰が要因なのかもしれません。現代にそこのパワーはあるのでしょうか。

私が掲げたこの三月の愛書家の楽園のテーマは、色街・花街、そして虹色の街でした。最後はその「虹色の街」、新宿二丁目をテーマにした本をご紹介します。

砂川秀樹『新宿二丁目の文化人類学 ゲイ・コミュニティから都市をまなざす』（太郎次郎社エディタス・三〇〇〇円）は、貴重な成果だと思えます。

「新宿二丁目」と聞いて、人々が真っ先に思い浮かべるのは、日本最大のゲイ・

タウンであるということでしょう。昨今、「LGBT」という語を冠した書籍も多く出てきているように、人々のセクシュアリティについての社会的な関心が高まり、多くの方々に認知されてきています。ただ、本書にあるように、「新宿二丁目」がそうしたアイデンティティを大きく掲げることができたのは二〇〇〇年に開催された「東京レインボー祭り」であり、まだまだただか数十年しか経っていません。

私の高校時代からの親しい友人の一人がゲイなのですが、彼が私を新宿二丁目のバーに誘って、いわゆる「カミングアウト」をしたのが一九九〇年代前半です。わざわざそんな場所でカミングアウトもないだろうと（笑）、笑い合って朝まで飲み続けた日をいまでもはつきりと思い出せます。そのときの新宿二丁目の風景は、大勢の人たちが深夜に、外でも賑やかに飲んでいるものでしたが、砂川さんの著書によると、そうした外に表立って人があふれる、いまでは決して珍しくないその光景は、一九九四年頃からのものであるらしい。私はちょうどそのタイミングに合わせるように友人からカ

ミングアウトされ、ごく普通にその街で朝まで飲み明かし、楽しい夜を過ごしたのです。

友人やバーで働く若者との会話で一つ印象的だったのは、この新宿二丁目になるとホッとすると言っていたことでした。そのバーの若者は北関東から週末になると新宿二丁目に戻ると言っていました。それが、それらを思い出すと、本書でも繰り返し語られる「コミュニティ」というものを深く考え、捉えなおす必要を強く感じます。



『新宿二丁目の文化人類学』

『新宿二丁目の文化人類学』は、東京大学大学院総合文化研究科に提出された博士論文が基になっており、本書を紐解くと、社会学や文化人類学での理論的な概念や研究史の整理も丁寧になされています。そうしたものに慣れていない方は、

そこを読み飛ばしても本書の魅力を感じ取れると思いますが、少し辛抱してその叙述に付き合っていくと、ここまでいくつか紹介してきた色街・花街の、歴史を含めたその把握の仕方を教えてくれます。その意味でも便利な本ですし、巻末の文献リストも上手に使えば、さらに理解が深まるでしょう。

男女の艶っぽい物語が生まれ、社会の矛盾が表出し、そして、明も暗も絡んだ、人間の情念が次々に噴出する。そうしたものを遠ざけるのではなく、少しの想像力をもって、われわれの生きる場所を多様なものにしていく。ここに紹介した本はほんのわずかですが、そこからみ取れるものはとても大事なことだと改めて実感しています。

(東京大学出版会・黒田)

*愛書家の楽園・特集「色街・花街・虹色の街」でご紹介した書籍は、ジュンク堂書店池袋本店一階エレベータ前と福岡店三階、丸善名古屋本店一階と京都本店地下二階にて、三月十日～四月九日までフェア展開中です。



安部政権女性管理職増加を目標に掲げ、「女性活躍推進法」が成立したことを受けて、スーツ市場をはじめとした、働く女性向けの市場はどんどん広がっています。そこで本欄では、女性ならではのお仕事術はもちろん、ライフスタイルや職場でのファッションを紹介した雑誌や書籍、働く女性を主人公にしたお仕事小説などをご紹介します。

働く女性のファッション

まずは、職場用のファッションに関する本から。

『ビジネスファッションルール』（デイスカヴァー・トゥエンティワン・大森ひとみ著・一五〇〇円）

ビジネスシーンにおいてファッションも戦略の武器として捉えたバイブル的な一冊。

細かなチェックリストに基づいて自身のファッションをチェックすることが出来、それぞれのシーンに合わせた確かなアドバイスしてくれます。また、逆になさわしくない服装やアイテム、思わぬ落とし穴ファッションなど。素材や襟の形に至るまで丁寧に指導をしてくれます。

『My Basic Note』（小学館・三尋木奈保みひろきなほ著・一四〇〇円）。

ファッション誌『oggi』のファッションエディター三尋木奈保さんによる、コーディネートマニュアルです。

トレンドにとらわれずに、自分なりの工夫を重ねて、さりげないオシャレをストレスなく着こなす。働く女性はもちろん、オシャレを楽しむ女性の理想が詰まった一冊です。お手本にするのもよし、オシャレアイテムを見て楽しむもよし、一冊です。『働く女性のための色とスタイル教室』（講談社・七江亜紀著・一六〇〇円）もあわせておすすめです。

『きちんと見える信頼される デキる女のおしゃれの方程式』（講談社・森岡弘著・一三〇〇円）では、男性と仕事をするシーンが多い中、相手が自分の服装のどの部分を見ているのか、好感を与えているのかなどを細かく分析しています。また、後半では日ごろとは違ったオフの日のファッションなども紹介し、見えないように意外と見ている男性のズバリ本音を知ることが出来ます。

ファッションもそうですが、働く女

性にとっては毎日のメイクも重大な問題です。

しかし、マナーやTPOなど、日々欠かすことのできないものだからこそその悩みもたくさん……。

そんな方のために、美容情報専門の雑誌や、オフイスメイク術を紹介した本も最近では増えてきています。

『もうネイルアートには頼らない 大人の上品美甲塾』（講談社・東城汀留著・一四〇〇円）

仕事中、手元って見ていないようで意外と相手からは見られているもの。ネイルアートではない、大人の女性の日々の爪のお手入れや切り方整え方、あらゆる爪の悩みにカリスママニキュアリストが丁寧に答え、美しいだけでなくより健康な爪の手入れ法を伝授してくれます。

仕事をしながら

お手軽ライフスタイル

続いて、働きながらでも簡単に実践できるライフスタイルの本をご紹介します。

まずは食生活に関する本から。毎日朝から晩まで働きづめだと、ついつい食生

活が乱れがちです。

自炊とは言っても、毎日続けるのは結構大変……。そんな方におすすめの、無理のない食生活ができる本がこちら。



『常備菜』

『常備菜』（主婦と生活社・飛田和緒著・一三〇〇円）

最近のつくりおきおかずの火付け役ともいべき一冊。

あるもので簡単にはもちろん、どの常備菜も彩り鮮やかで、ページをめくるとびにお腹が鳴り出しそうになります。

味付けはちよつと濃い目で、ご飯にもパンにも合うように工夫されていて、時間がない時でもじゅうぶん満足できるものばかりだと思います。食材の保存期間も示されていて、週末にまとめて作っておけば、毎日ラクチンです。

『キャベツのせん切り、できますか？』（ナ

ツメ社・森下えみこ著・一〇〇〇円）

料理をするのは嫌いじゃないけど、もしかして私って料理下手かも……。そんな疑問がふとよぎったおかげで、基本を一からやり直す事になった著者自身のコミカルなお料理体験本。可愛いイラストも魅力のひとつで、後半は写真と説明文でしっかり料理の基本を教えてください。これがあれば料理は完璧になれそう！今更聞けない、でも実はすべての女性が思っているお料理。あるある。本。

しかし、いざ料理を始めてみても、やっぱり気になるのはカロリーや栄養バランス。

『あなたは半年前に食べたものできている』（サンマーク出版・村山彩著・一四〇〇円）

ただ、痩せる。というよりも、美しく健康的なカラダのための一冊です。

この本によると、正しい食欲であれば食べたいものを食べたいだけ食べて大丈夫。だそうです（まるで夢のように）。今すぐでなくても半年後、もっと先の健康的な自分のカラダのためにもぜひ読んで欲しい一冊です。

『女子栄養大学栄養クリニックの深夜ご

はん』（宝島社・九二〇円）

夜遅く帰って食事をする時、気になるのはカロリーや栄養の事。そして知らずに太ってしまう恐怖ノノノ

ダイエット成功率九十%の女子栄養大学が、夜遅くに食べても大丈夫な食材や調理方法を伝授。栄養大学ならではの細かなカロリー表示もうれしい一冊です。

毎日仕事をしていると、自分の時間のすごし方の大切さに気付かされます。

仕事終わりや休日に始められる、背伸びをしない暮らし術を提案した本をご紹介します。

『NEXT WEEKEND #週末野心』（世界文化社・村上萌著・一三〇〇円）

一週間働き詰めのアとの休日はひとりでのんびり過ごす派ですか？ それとも友人と集まってわいわい騒ぐ派ですか？

ひとりなら、疲れたカラダにご褒美のような自分磨きの極上の時間を。

友人となら、パーティー感覚のようなピクニックを。

美味しいものを食べたり楽しいおしゃべりをしたり、そんな週末の過ごし方や場所の提案をしてくれる一冊です。もし

かしたら、読んでいるだけで十分に充実した週末かもしれません。



『NEXT WEEKEND #週末野心』

続いてこちら。

『オトナ時間。オンナ時間。』（マガジンハウス・ともさかりえ・行正り香著・一三〇〇円）

ライフスタイルに定評のある二人が、仕事の事や子育ての悩み、日々の中で見つけるちょっとした自分の時間の事など、出会ってからの十年を振り返りながらあれやこれやおしゃべりを楽しむエッセイ本。

好きな映画の話や得意料理から行きつけのお店まで、結婚して子どもがいても大切にしたいオンナの時間がギュッと詰まっています。

『今より少しだけきちんと大人のひとり暮らし』（大和書房・柳沢小実著・

一四〇〇円）

いざ始めようと意気込んでも、何から手をつければ良いのか、何を揃えておくべきなのか。結局買いすぎて余らせたたり必要なかつたり……。考えすぎるとせっかく始めたひとり暮らしも楽しくない！

この本ではひとり暮らしの方法をより簡単にやさしく、お料理だったり日用品だったり、私にも簡単に出来るかも！と思わせてくれるものばかりが集まっています。疲れたときはがんばらないで麺類かお鍋、それなら続けられそうな気がしませんか？

これから始める方ももうすでに始めているけど少し窮屈になってきている方も、ゆったりとしたひとり暮らしを楽しみたい人にお薦めです。

『SPRING インテリアBOOK 2016』（宝島社・八三〇円）

ファッション誌『SPRING』から毎年出ているインテリア本。

部屋が広く見える家具の配置やおしゃれなカラーコーディネート、ロマンチックかガリーリーか、部屋全体を撮った大きな写真を使って解説してくれるので、自分好みの部屋を見つけて今すぐ実践でき

そんなものばかりです。後半では収納アドバイスや家具のチェックブックも載っているのですが、これからひとり暮らしを考えている方にもお勧めです。

働く女性のワークライフバランス

仕事も自分の時間も大切。しかし、結婚や出産、将来の蓄えのことも気になります。

『富女子宣言』（幻冬舎メディアコンサルティング・永田雄三著・一三〇〇円）

「おひとり様」といわれる独身女性が注目（？）を集め、ずっと一人で生きていく場合、老後に備えるにはどれくらい貯金があれば安心だろうか？と悩む女性も少なくないご時勢。お金の知識、貯金の計画は女性もしっかり持つておくべきではないでしょうか。本書は「二十代で一〇〇〇万円」を目標に、貯金の方法やその後の資産運用についてアドバイスしてくれまます。二十代で一〇〇〇万円あればその後の人生の選択肢が広がる／という著者。金額が具体的にわかり易いのがいいですね。

『リーママたちへ 働くママを元気にする30のコトバ』（KADOKAWA・

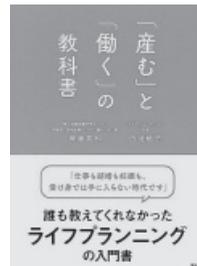
二二〇〇円）

働くママ（サラリーマンママ・フリーママ）を元気にして彼女たちの力を社会に還元しよう／という想いから生まれた博報堂「リーママプロジェクト」が、リーママ達を明るく元気にする言葉やコラムを集めた一冊です。仕事も家事も育児も完璧にこなすステキなママが取り上げられる一方で、それに比べて私は？と、何でも完璧にしようとして追い込まれてはいないでしょうか？ ワークライフバランスなんて、とれなくて当然。初めての育児は失敗だらけで当然。頑張りすぎるとリーママ達の心を軽くするメッセージがいっぱいです。

『産む』と『働く』の教科書（講談社・齊藤英和・白河桃子著・一三〇〇円）

就職して、結婚して、子どもを生まれて……どれも自然な流れで出来るんじゃないかな、と思っている女性も少なくないのでしょうか？ 著者はそんな「自然な流れで……」という考え方では何も手にする事はできないよ／とはっきり。仕事、結婚、出産……しっかりライフプランを立てるには何がポイントか？というのを大学生への講義という形でわか

りやすく教えてくれます。



『「産む」と「働く」の教科書』

女性のためのお仕事術

さて、ここからは女性のためのお仕事術やビジネスマナー本をご紹介します。

まずは、多くの女性企業家たちの本から。どの本もサクセスストーリーとしてのも楽しめて、実際のお仕事に活かすことのできるエピソードがたくさんです。

『可愛いままで年収一〇〇〇万円』（WAVE出版・宮本佳実著・一四〇〇円）

一般企業に就職したものの、こんな仕事早く辞めてしまいたいと思いが、今日も満員電車で揺られて仕事へ向かう……そんな普通の女の子だった著者が、ファッションコーディネーターという自分の大好きなコトで起業し成功した秘訣を教えてくれる一冊。自分のしたいことを仕事にし、しかもバリバリ働かずに

ふんわりゆるく可愛いままでお金を稼ぐなんて自分には無理！と思うかもしれませんが、著者はそう深く考えず軽く行動してみる事が大切だと言います。好きな事を仕事にしたいと思いつつも悩んでいる人の背中を押してくれる一冊です。



『フツの女子社員が29歳で執行役員になるまで(仮)』

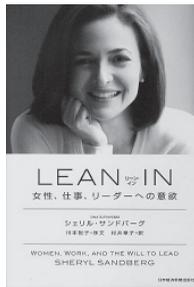
『フツの女子社員が29歳で執行役員になるまで(仮)』（日経B P社・横山祐果著・一四〇〇円）

ゲーム会社・サイバーエージェントで人気ゲーム「ガールフレンド(仮)」を手掛けた二十代の普通の女性社員が、いきなり執行役員に任命されたら……？ 本人いわくバリバリ仕事をするタイプではないし、ちょっと人見知り。そんな彼女が管理職として奮闘する姿が描かれます。若手を交替で執行役員に任命していくという、ユニークな取り組みを行うサ

イバーエージェントがどういった会社なのかも分かって面白いですよ。

『LEAN IN(リーン・イン)』（日本経済新聞出版社・シエリル・サンドバーグ著・一六〇〇円）

女性が職場でより活躍するためのアドバイス、こちらはフェイスブックのCOOシエリル・サンドバーグの著書。結婚も出産もし、世界から注目を集める一流企業のエグゼクティブとして働く彼女が女性たちに伝えたいメッセージとは。フェイスブックという企業の読み物としても面白い一冊です。



『LEAN IN』

仕事とひとこと言っても、たくさん働き方があり、女性ならではの仕事術の本もたくさんあります。

『伸びる女と伸び悩む女の習慣』（明日香出版社・関下昌代著・一四〇〇円）

仕事の出来ない人はこうだ、駄目な人の習慣……といった本は当てはまる事が多くて読んでいて辛くなる事が多いのですが、この本は邦銀、外資系銀行で働いた著者の経験をもとに、こんな習慣が身につけていたら仕事ももっと上手くいくよ！とポジティブなアドバイスがたくさん。仕事場での気遣いやオフの日の過ごし方など、自分でもすぐに取り入れられそうな習慣ばかりです。

『なぜ、彼女たちの働き方はこんなに美しいのか』（日経B P社・麓幸子著・一六〇〇円）

日本の女性管理職の割合が少ないという問題。会社内の制度づくり等も大切ですが、目標となるロールモデル女性管理職がいることも大切だといわれます。本書は最高取締役や役員などエグゼクティブとして活躍する女性二十二人の苦労や失敗、今の仕事のやりがいなど、そのキャリアを紹介していきます。こんな格好いい働く女性になりたいノと思えるモデルが見つかりそうでね。

『会社の未来は女性が拓く！』（日本経済新聞出版社・植田寿乃著・一六〇〇円）
もっと女性が会社で活躍できるように

しなくては！と言われ続けていますが、未だ管理職に占める女性の割合は他の先進国と比べて低いまま。では具体的に会社はどうやって女性活躍推進に取り組みがいいのか？ 女性のキャリアコンサルティングを続けてきた著者が、具体例を交えて取り組み成功のヒントを教えてください。

『大人の女性はどう働くか？』（海と月社・ロイス・P・フランケル著・二六〇〇円）

女性のキャリアアコッチャカウンセリングを行なってきたアメリカ人著者による、できる、大人の女性の働き方ガイド。優しく協調的、従順な「女の子」のままで、一緒に仕事をしやすい人にはなれるけれども、本当のキャリアでの成功は叶わないのでは？ 知的でストレート、自分のセールスポイントを心得ている一人のビジネスパーソンとして周りに敬意を払われる、大人の女性の目指すなら是非一読を。もつと気配りを、丁寧な動作を……といったふんわりしたものはなく、より専門知識をつけて、謙遜をしすぎないで！ 自分を売り込むチャンス逃してはダメ！と厳しいアドバイスがビシバシ飛んできます。実践するのは疲

れそう……でも、これからのビジネスではまさにそんなタフでしたたかな女性にならなければいけないのかもしれない。

仕事をするうえで、ビジネスマナーもしっかりと身に着けておきたいもの。基本のマナーやSNSでのマナーなど、たくさんビジネスマナー本があります。

『図解まるわかり 女性のビジネスマナー』（新星出版社・鈴木あつこ著・一〇〇〇円）

仕事が出来た女性になりたい！といっても、大事なのはやっぱり基礎の基礎。ビジネスマナーをおさらいできるこちらの一冊はいかがでしょう？

男女共通のビジネス基本マナーは勿論、女性ならではのオフィスファッションのルールもばっちり網羅されており、まさにこの一冊でOKな、充実の内容です。オールカラーのイラストで楽しみながら分かりやすく学ぶことができます。

『気持ち伝わる！「書き方」練習帖』（スターツ出版・五五〇円）

お仕事をするなかで企画書やメールなど、文書を書く場面はたくさんあります。またペーパーレスになったといっても、

御礼の手紙や手書きメモを書くこともまだまだありますよね。本書にはビジネス文書の基本やマナーから、書き込み式の文字練習、更にはSNSでのコメントマナーまで載っており、薄くてお手ごろ価格ながら頼りになる一冊です。

『基本は誰も教えてくれない日本人のための世界のビジネスルール』（ディスカヴァー・トゥエンティワン・青木恵子著・一五〇〇円）

仕事での活躍の場はいまや日本国内にとどまらず、海外に広がっています。いつかは転職して海外企業で働いてみたい！と思っている方も少なくないのでは。ビジネスルールやマナーは日本企業と海外企業で異なるもの。えっ、日本ではOKだけどこれは海外ではNGなの？と思うルールがたくさんあります。近々海外勤務予定の人も、いつかは海外で活躍したい人も読んでおきたい一冊です。

女性のためのお仕事小説

最後に、様々な業界で働く女性を主人公にしたお仕事小説をご紹介します。心にしみるアツい物語から、今の自分と重ねて共感できるもの、明日からも頑

張ろうと思えるものもあるのではないでしょう。これを機に、読書を始めてみるのでもいいかもしれませんね。

まずは『この世にたやすい仕事はない』（日本経済新聞出版社・津村記久子著・一六〇〇円）。

きつい仕事に燃え尽きてしまった三十六歳の女性主人公が、異なる五つの仕事を経て、自分と仕事との健全な関係を取り戻すまでを描いた連作短編、まさに、ザ・お仕事小説。主人公が「こんな仕事があったらいいな」と思った職場を次々と旅する「お仕事ファンタジー」です。



『この世にたやすい仕事はない』津村記久子

『ガール』（講談社文庫・奥田英朗著・五五二円）

三十代の働く女性たちの、悩んでもがいて、それでも前向きに生きていく姿を描いた短編集。

女性たちを取り巻く職場での立ち位置や、扱いの変化の細かい描写など、全てがリアルすぎて、ついつい「これって私のこと?」と思ってしまう。

『OLはえらい』（文春文庫Plus・益田ミリ著・八二〇円）。

二十七歳、普通のOLの主人公が、家族や職場の仲間との関係をシニカルに眺めながらも、一生懸命に頑張る日々を描いた作品です。社員食堂での席、会議での発言、宴会でのカラオケ選曲などに気遣い、迷う姿など、読んでいてじんわりと心にしみわたる四コマ作品です。

『七人の敵がいる』（集英社文庫・加納朋子著・六二〇円）

編集者としてバリバリ仕事をこなす主人公が、小学校のPTA役員会や自治会など、次々と降りかかる「お勤め」に振り回される日々を描いた作品。

毎日ドタバタながらも奮闘する主人公の姿はカッコよく、読み終えた後には心がスカッとする一冊です。

最後は『ハケンアニメ!』（マガジンハウス・辻村深月著・一六〇〇円）。

アニメ業界を舞台に、三人の女性の視点から、悩んだり落ち込んだりしながら

も、アニメ制作に全力を注ぐ人たちの姿を描いた作品です。

作中で語られる言葉の数々には、自分の仕事に対するプライドや熱意というものを改めて思い出させるような力強さがあります。どのような立場にあっても、作品の制作にかけるひたむきな姿勢は変わらず、それには働くということよりも、日々を強く生きることを教えられるような気がします。



『ハケンアニメ!』

というわけで、働く女性を応援できるような本をご紹介いたしました。

みなさまにも、実際の仕事に役立てたり、ほっと一息ついたりしたいときの一冊を見つけていただければうれしく思います。

(MARUZEN & ジュンク堂書店)

梅田店・佐々木

今月の
おすすめ

コンピュータ

シンギュラリティ
人工知能から超知能へ

マレー・シャナハン著

ドミニク・チェン 監訳

進化を続ける人工知能は、いつか人間のコントロールを離れてしまうのではないか。その恐るべき技術的特異点を想定して、シンギュラリティと呼ぶ。脳の完全なコピーをつくって物理的な身体とつないだらどうなるか」など、一昔前からSFでしかなかった内容が、現実と地続きの感触ともなつて語られている。

NTT出版

二四〇〇円



僕が伝えたかったこと、

古川享のパソコン秘史

古川 享著

月刊アスキー副編集長からマイクロソフトの日本法人社長、そして米本社のヴァイスプレジデントなどを歴任した古川享氏の自伝。エピソード一と銘打たれた本書ではマイコンと出会った学生時代、アスキーに入社した青年時代が語られている。パソコンが急激に進歩・普及した当時の、現場の熱量がうかがえる一冊。

インプレスR&D 一八五〇円

Scala パズル

Andrew Phillips 他著 竹添直樹他監訳

プログラムの実行結果がどうなるかを選択式クイズで問う『Java Puzzlers』（ピアソン桐原・現在品切れ）。この本の流れを汲むのが本書だ。Scala はオブジェクト指向言語と関数型言語の特徴を併せ持つため記述性が高いが、それゆえに意図したとおり動作しないコードも書くことができってしまう。クイズを解きながら、Scala 特有の畏について理解を深めよう。

翔泳社

三〇〇〇円

Go 言語による

Web アプリケーション開発

Mat Rajar 著 鵜飼文敏監訳 牧野 聡訳

Google が〇九年にリリースした Go 言語。C 言語の開発で知られるケン・トンプソンなどが設計に携わり、シンブルな言語仕様が特徴で、日本ではニュースアプリを提供する Gunosy などが採用している。本書はチャットアプリなどを実際に開発しながら、Go 言語らしいテクニックを身に付けることを目的としている。

オライリー・ジャパン 三二〇〇円

事例に学ぶスマホアプリ

マーケティングの鉄則 87

池村 修著

ありそうでなかったアプリマーケティングについての本。著者はエキサイト株式会社でエキサイトニュースなどのアプリを担当。同社がこれまで百本以上のアプリをリリースし蓄積してきたノウハウを、本書の中で惜しげもなく披露している。左ページに分析やマネタイズについての鉄則、右ページに具体的な表や画像というレイアウトも見やすい。

KADOKAWA

二五〇〇円

今月の おすすめ

自然科学

生涯を賭けるテーマを いかに選ぶか

東工大講義

最相葉月著

本書は著者が大学で行った講義を纏めたもので、講義名がそのまま書名になっている。各回ひとりの人物（工業大学の講義のため、科学者や研究者が多い）を取り上げ、何故その道・その研究テーマであったのかを浮き彫りにしていく。

成果や結果はとて判りよく伝わりやすい。情報として一瞬で伝わる成果の過程がどれだけの長さであったか、どんな迷いがあったかは、踏み込まない限り聞こえてこない。成果が見えてくるまでも今日・明日・明後日の生活があり、以前よりも情報があるだけ、ひとつの道を志すことは生半可にはいかないのかもしれない。

研究の道に関わらず、日常の軸をどうするか考え悩んでいる人は多いように思

う。そんなとき、先輩の言葉があることがどれ程の救いになるか、本書を通して深く実感する。

『女子学生、渡辺京二に会いに行く』（文春文庫・渡辺京二・津田塾大学三砂ちづるゼミ著・六三〇円）もおすすめ。

ポプラ社

一五〇〇円

触楽入門

テクニカル著

目で感じる視覚や、耳で感じる聴覚と違い、感覚器が全身に散らばっている触覚は、一言でそれを定義するのが難しい。もちろん、指や体の一部で何かを触れたときに感じられる感覚も触覚の内だが、「お腹が空いた」と感じる内臓感覚や、運動したときにわかる筋肉の感覚（固有受容感覚という）も触覚の内に入るからだ。

このようにあらゆる場所で感じることでできる上、しかもその触覚イメージは他の五感と混じりあったり、感じる人の記憶と絡み合うことにより多様な変化を見せる。要するに、感じ方には個人差があるのだ。こういった取り出すのが難しい主観的な感覚である触覚は、客観性を重んじる科学では扱うのが難しく、い

まだ解明されていない部分が多い。

その未知なる感覚・触覚について、深いところまで丁寧に「触れて」いるのが、本書である。

ページを捲る度、難しい理屈が解きほぐされていく感覚や、眠っていた触覚が研ぎ澄まされていくような感覚を是非味わってほしい。

朝日出版社

一五八〇円

眠っているとき、

脳では凄いいことが起きている

ベネロペ・ルイス著

西田美緒子訳

楽しいことが多すぎて眠るのがもったいない……または、やりたいことが多すぎて眠る時間が惜しい……なんて思ったことはないだろうか？

本書はそんなうっかり睡眠をながしろにしている方々にこそオススメしたい。上手に睡眠をとることで情報は整理され、記憶力が高まるばかりか、心の傷まで癒されるって、本当？ まだまだ謎の多い睡眠と脳の関係についてコンパクトにまとめた、まさに目の覚める一冊！

インターシフト

二二〇〇円

今月の
おすすめ

医学書



ねころんで読める てんかん診療

中里信和著

百人に一人が持つてんかん。有病率1%の割に専門医は少なく(約五二〇人)、多くの診療を非専門医が担っている。

本書は、専門誌「脳神経外科速報」に連載していた「知らない患者もあなたも損をするてんかん診療ABC」を加筆修正し非専門医のためにまとめたもの。日常臨床の現場でありがちなエピソードの症例を紹介し、考察する。発作ゼロ・副作用ゼロ・不安ゼロの治療をするための知識をつける。巻末に、てんかん情報

を扱う代表的ウェブサイトを載せているので活用してほしい。

メデイカ出版 三四〇〇円

医療の歴史

穿孔開頭術から幹細胞治療までの1万2千年史

ステイブ・パーカー著 千葉喜久枝訳

これまでも様々なアプローチから医学史の書籍が刊行されているが、本書は先史時代から現代までの全時代、西洋・東洋及びヨーロッパ人が発見する以前のアメリカ・アフリカ大陸も含めた全世界的な医学の歴史を包括的に扱いつつも、多彩な図版とポイントを押さえた軽妙な語り口で興味深く読ませる、珠玉の書。今の基準からすると滑稽にみえる施術も、歴史の大きな流れの中で生まれ、消えていった人類の試行錯誤の賜物であり、一つ一つが現在の医療につながる大切なピースであると改めて感じさせてくれる。

創元社 二八〇〇円

治療家の経営術 改訂新版

山下 健著

近年、鍼灸の学校の増加に伴い鍼灸師

となる卒業生は五千人にも上るが、学校は合格率を競うばかりで臨床治療家としての育成は程遠い状況だという。さらに供給の過剰により鍼灸師の人員は飽和状態になりつつある。しかし、こういう時こそ患者さんから求められる、もしくは信頼される鍼灸師になる為に工夫と努力が必要だと開業十五年を超えるベテラン鍼灸師の著者は訴える。本書は書籍名に経営術と書かれているが、マーケティングに関してではなく実践上の心構えや人間性のあり方について説明しており、これから開業予定の方や日常の見直しをしたい方、スタッフの教育に携わる方などに読んで頂きたい一冊である。

森ノ宮医療学園出版部 二三〇〇円

発達OTが考える

子どもセラピイの思考プロセス

小西紀一監修 小松則登編集

「お待たせしました！」と監修の序にある。特にわかりにくいといわれる子どももの作業療法を、セラピスト講座の研修内容を基にその背景となる考え方に目を向けてやさしく解説。

メジカルビュー社 四〇〇〇円

今月の
おすすめ

社会科学

憲法と民主主義の論じ方

長谷部恭男・杉田 敦著

日本の政治は大きく揺れている。憲法解釈問題などで議論が巻き起こり、デモなどが耳目を集めた。多くの人が憲法や政治について考えることになったと思うが、複雑な問題に論が錯綜し、理解しきれない場合もあるだろう。

本書は憲法学者と政治学者による一連の解説。二人が時には立場を異にしながら憲法や民主主義、セキュリティ問題等について論じる。国際法や国際関係、選挙制度の問題も含め、法学と政治学がどのように考えてきたのかを広く紹介。扇情的な論調が溢れるなか、先人によって積み重ねられてきた解釈や議論の解説は、傾聴に値するのではないだろうか。

朝日新聞出版

一三〇〇円

ドキュメント銀行

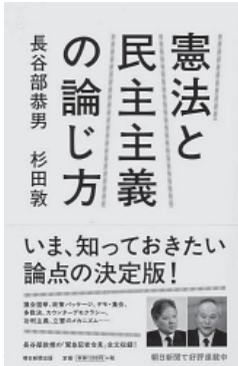
前田裕之著

著者は金融業界を中心に取材をしてきた日本経済新聞の編集委員。

一九九五年から二〇一五年を対象に、日本の銀行で起こった主な事件や出来事をピックアップし、金融を学ぼうとする初心者にわかりやすくまとめている。当時の経営者の言動、現役銀行員への取材や様々な資料を駆使する。それでも、著者は『衝撃の新事実』は含まれていない」と記述しているが、この二十年間を振り返ることで、温故知新の教訓を導き出すとしている。

デイスカヴァー・トゥエンティワン

二四〇〇円



横山和輝著

マーケット進化論

雑誌『経済セミナー』で連載されてい

たコラムをもとに製作されたものである。律令制の時代から高橋財政までの日本史上において、マーケットは不完全であり、それでも市場が形成され、発展してきた過程を追っている。経済の変化に

糾余曲折しながら、市場の形成と共に生産者や商人たちの利害やトラブルを収めるための制度を整えていく様子が描かれている。読んで驚いたのは、戦前の小学校では金融リテラシー教育が行われ、金利計算を教えたということである。

日本評論社

一九〇〇円



愛と経済のバトルロイヤル

橋木俊詔・佐伯順子著

橋木氏は労働経済学、佐伯氏は文学やジェンダー論が専門の学者で、それぞれ欧米での研究生活の経験があり、両者の

特徴がよく出ている対談本。日本が今抱えている様々な問題に、歴史的背景や海外事例との比較も踏まえ、鋭く斬りこんでいく。景気低迷や男女格差、晩婚・非婚化や、家事・育児・介護等、テーマは多岐にわたる。現代人の幸福とは何かにについて考えさせられる一冊だ。

青土社

一八〇〇円

東芝 不正会計

今沢 真著

二〇一五年五月、東芝は決算発表の二ヶ月延期、また配当見送りの異例とも言える発表を行った。本書は、東芝騒動の発端から現在までの経緯を詳しく記している。定例の株主総会では質問が飛び交い、なぜ社外取締役や監査法人が不正を見抜けなかったのかということに火が飛んだ。

著者によると、米原発子会社ウエスチングハウスの負を含めて、今年三ヶ月の赤字は総額五五〇〇億円にのぼると予想される。大企業の不正会計は、去年に続き今年も経済界を賑わせる最大のニュースとなることに間違いなさそうだ。

毎日新聞出版

一〇〇〇円

インターネットと人権侵害

匿名の誹謗中傷とその現状と対策

佐藤佳弘著

世の中にインターネットが普及して、生活が便利になった反面、犯罪に利用されることも増え、負の側面が社会問題化してきている。本書は特に人権侵害に焦点を絞って詳しく解説したものとなっている。名誉毀損や脅迫、さらしやいじめなど、ありとあらゆる人権侵害がネット上で行われていることにまず驚かされる。ただ現状を紹介するだけでなく、対処法や、安心できるネット社会への取り組みといったところまで踏みこんで書かれてあり、高く評価できる内容だ。

武蔵野大学出版会

二〇〇〇円

女子高生社長、経営を学ぶ

椎木里佳・椎木隆太著

まず注目すべきは、著者が中学三年生で起業した弱冠十八歳の女子高生社長であることだ。しかも、父親は上場企業の株式会社ディーエーリーの代表取締役である。

本書の内容は、娘の里佳と父親の対話形式で、父の経験をもとに起業や経営の

イロハが説明される。親子の会話は親しみやすく、定款などの難しい話もわかりやすく読むことができる。現在、彼女は株式会社AMFを立ち上げ、JCJK調査隊を名乗り、現在はアプリ開発も行っている。

ダイヤモンド社

一三〇〇円

トリガー

自分を変えるコーチングの極意

マーシャル・ゴールドスミス、
マーク・ライター著

本書ではトリガーを、行動に影響を与える刺激と定義づけている。著者は世界的な大企業の経営者を多数指導してきた、コーチングの神様と呼ばれる人物だ。私たちの行動習慣をより良い方向へ改善するために何が重要かを説いた一冊。

事例に登場するのはエグゼクティブが中心だが、エピソードの一つ一つが丁寧に描かれてイメージしやすく、一般の方が読んでもじゅうぶん理解できる内容。読みやすいけれど、実践的で役立つという印象だ。

日本経済新聞出版社

一八〇〇円

今月の
おすすめ

人文科学

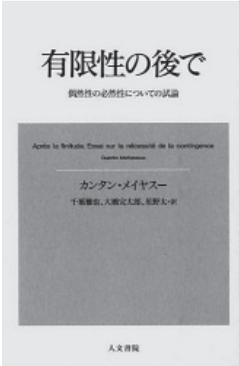
有限性の後で

カンタン・メイヤスー著

現代思想の新しい潮流「思弁的実在論」、その最重要著作の待望の邦訳である。カント以来の近現代哲学では、ある事物は、私達がそれを認識することにより存在するという事になっていった。では、私達の思考から切り離された世界で、物自体が存在するという事はあるのだろうか？ その可能性を証明し、人間主観の価値観の転覆を試みる。千葉雅也による訳者解説も必読。

人文書院

二二〇〇円



教養としての認知科学

鈴木宏昭著

私たちのあらゆる活動（考え、判断し、学び……）には知性が関わっているが、それでは知性とはいかなるものなのか？ 多様な形をもつ知性なるものを総合的に捉えるのが認知科学という学問である。著者は誰にでも覚えのある体験や好奇心をそそる実験を挙げつつ、知性の新しい姿——身体を通して環境と関わりあい柔軟に変化していく——を描き出す。

東京大学出版会

二七〇〇円

優秀なる羊たち

ウイリアム・デレズウィッツ著

ハーバード、イェール等々、米国の一流名門大学の学生の多くは非の打ち所がないくらい優秀だ。ところがそれは表面だけで、一方で精神的な危機を抱えているらしい。問題は、大学で学ぶことの根本的な意味の欠如であり、エリート主義の弊害だと著者は言う。日本でも大学改革が云々される今、若者を真の学びへと誘わんとする本書は示唆的である。

三省堂

二五〇〇円

アルメニア人の歴史

ジョージ・ブルヌティアン著

ほぼ唯一で、初めてと言つてよい、「アルメニア人の歴史」の本である。西と東の間にあるこの小さな国は、その要衝としての重要性から侵略を免れず、結果多くの国に民が分散し、研究を難しくしてきた。自らもアルメニア人の血を引く著者による、離散の民の独立への闘いの書である。

藤原書店

八八〇〇円

イスラーム神学

松山洋平著

昨今、世界的に注目されているイスラーム教。イスラーム世界を知るための解説書も多数出版されているが、本書は日本で初のイスラーム神学入門書となる。イスラームの「信条」に目を向け、その信仰大系と基本的な問題点を明らかにしながら、「ムスリムは何を信じているのか？」を解説していく。

混乱するイスラームへの認識にひとつの指標を与えてくれる一冊。

作品社

二七〇〇円

今月の
おすすめ

文学・文芸

坂の途中の家

角田光代著

「最愛の娘を殺した母親は、私かもしれない。」

主人公の里沙子は、二歳の娘・文香を育てている時、乳幼児虐待事件の補助裁判員になる。子どもを殺した母親・水穂の証言にふれていくうちに、里沙子は幸せだと思っていた自分の家族が実は偽りの幸せだったのだという事に気づき、愕然とする。「幸せだと思っていたものは偽者だった。」主人公が心の中で呟く言葉は重く読者にのしかかる。義祖母の優しい言葉には悪意があり、最愛の夫の言葉も裏返せば里沙子に劣等感を植え付けてくるものだった。

家族の光と闇をテーマにしたこの小説は、読んでみると息苦しくなる。他人事と割り切つて読み終わらたかったのに、それが自分の身近にもごく普通に潜んでいる心の闇なのだ気づいた時、心が凍

りつく思いがした。
朝日新聞出版

一六〇〇円



また、同じ夢を見ていた

住野よる著

デビュー作『君の臍臓をたべたい』（双葉社・一四〇〇円）で涙した、すべての読者に満を持してお届けする物語。

主人公の「私」は、本を読むのが大好きな、学校にあまり友達のない小学生の女の子。少女が出会った一匹の猫、リストカットの傷のある南さん、アバズレさん、お菓子づくりの好きなおばあさん。そのセリフの一つ一つに、きつと心を打たれるだろう。

少女が時折口ずさむ、「レーあわーせはー、あーるいーてこーない。だーからあーるいーていーくんだねー」の歌声が、

どこまでもやわらかくのびて、一歩先のその未来を信じたくなる。

今最も注目の作家・住野よる、待望の最新作。ラストで、涙と感動ととびっきりの笑顔が待っている。

双葉社

一四〇〇円

世界の終わりの七日間

ベン・H・ウインタース著

上野元美訳

一作目『地上最後の刑事』（ハヤカワポケットミステリ・一六〇〇円）、二作目『カウントダウン・シティ』（同・一六〇〇円）に続く三部作の完結編。

地球に向かって巨大な小惑星が迫り、あと半年で滅亡するという非常事態の中で、主人公の若き警察官パレスを描いた一作目。滅亡を前にして苦しまずに死ぬ自殺法が流行し、無政府状態に陥り、世紀末の様相を帯びてくる二作目を経た今作は、小惑星が地球にあと数日の距離まで迫っている。混乱した世界の中で、主人公は消えた妹を探しに出る。

魂の芯を静かに揺さぶられる、大傑作だった。

ハヤカワポケットミステリ 一六〇〇円

今月の
おすすめ

文庫・新書

爪と目

藤野可織著 三歳児の「わたし」。父から再婚を申し出られた「あなた」。ペランダで死んでいた母。「純文学ホラー」で「芥川賞受賞」？

これは手にとるしかないと思った。いつもなら、私は誰かの感情に自分をすべり込ませることができたし、物語の中の誰かとともに、胸を痛めることができた。けれど今回は違っていた。

話が頭に入ってこないわけではなく、むしろ文章の引力はとて強いというのに、ぬるりと穏やかにはじかれて、最後のページをめくり終えても、誰のなかにも入ることができなかったのだ。

爪をかじり、冷たくなった指で、「わたし」は「あなた」の目をこじあける。そして、そこには何があるのだろうか。自分が見えるのだろうか。見えても、見えなくても、たぶん、おなじように怖い。

新潮文庫

四三〇円

知られざる名将 真田信之

相川 司監修 M Y S T 歴史部著

信州松代藩の藩祖・真田信之。真田昌幸を父に持ち、真田幸村（信繁）の実の兄でもある。二人の陰に隠れ、歴史に詳しい人でもなければ知らないような人物である。そんな真田信之に焦点を合わせて、戦国を生きたる真田一族の姿を記したのが本書。

そもそも真田氏は信濃の一豪族であり、信之の祖父は武田信玄の配下の武将だった。それが武田信玄の死とその後の武田家の滅亡により、真田一族をめぐる状況は激変。この武田家滅亡から豊臣秀吉の天下統一までの信濃情勢というのは非常に複雑で、本書ではこの部分を特に重点的に解説している。そして迎える、関ヶ原の合戦。なぜ真田信之は父や弟と決別し、第二次上田合戦はなぜ起こったのか。そこに至るまでの過程も丹念に書かれており、親子相討つ中に垣間見える情には、真田信之という人物の人間性を感ずることができる。

真田信之の九十三年という長い生涯

は、武田や上杉、北条や徳川といった大名家に左右されることがほとんどだった。父・昌幸や弟・幸村に比べれば、確かに華々しい活躍は少ないかもしれない。しかし信之はそんな時代にも負けずに生き残り、信州松代藩を経て今日まで残る真田家の礎を築いたのである。

だいわ文庫

七〇〇円

モンスタ―

尼崎連続殺人事件の真実

一橋文哉著 「私は警察に殺される」

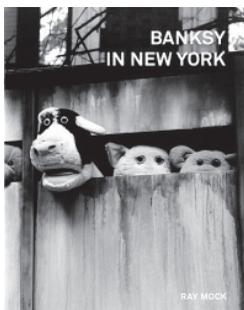
日記の最後にそう残し、尼崎連続殺人事件の主犯である角田美代子は息絶えた。留置場という警察の監視下にある環境で、彼女は首に自らのTシャツを巻きつけた。謎の自殺と片付けられた、そのあまりに「あっけない」結末は、本人が選択したものだっただけか。最期の言葉とおもわれた日記の一文、しかしその先に何者かにより破かれたページがあることが判明する。それが誰の手によるものなのか。そこには何が書かれていたのか。角田美代子は自殺したのか。それとも殺されたのか。本書がその真実に迫る。

講談社 + a 文庫

七二〇円

今月の
おすすめ

芸術



BANKSY IN NEW YORK

RAY MOCK 著

BANKSY。彼は画家である。だが彼がその作品をキャンパスに残すことはない。仕事をしているところを見つかると警察に捕まってしまう。キャンパスは壁。活躍の場は路上。そう、彼はストリートグラフィティアーティストである。

その素性は巧みに隠され、世界的にその存在が知られるところになったにも関わらずその正体はいまだ謎に包まれている。彼はメディアに多くを語らないが、そ

の作品自体は雄弁に見るものに語りかけてくる。本国イギリスを中心に作品を残してきた彼が、今度はニューヨークに現れた。本書はその一ヶ月の軌跡を追ったものである。

パルコ出版

二二〇〇円

ホスピタルギャラリー

板東孝明編

深澤直人・板東孝明・香川 征著

一般的に無機質なイメージのある病院とはかけ離れた病院がある。徳島県の徳島大学病院である。その玄関ホールには、『ホスピタルギャラリー「be」』が併設されている。

不安でいっぱい患者さんやその家族、リハビリに取り組む患者さんなど、そういった方たちの心を少しでも和ませ、癒しを与えるためにデザインには何ができるだろう、と、デザイナー深澤直人さんと武蔵野美術大学教授・板東孝明さんによって創られたこのギャラリー。展示される作品は、武蔵野美術大学で「形態論」を学ぶ学生や徳島県に在住している作家の作品である。

デザインされた製品の外見や形状では

なく、その中に「かたち」を見いだす形態論を学ぶ学生には一つのテーマが与えられ、そのテーマに沿った作品を制作するのである。

本書には、今までギャラリーで展示された作品の一部が、解説や来場者の感想と共に紹介されている。自由な発想でつくられた作品だからこそ、観る側の感じ方も一つとは限らない。

病院という場所での展示だからこそ成し得た心の繋がりを感ずるような一冊である。

武蔵野美術大学出版局 二二〇〇円

仏像再興

仏像修復をめぐる日々

牧野隆夫著

数百年も前に生み出された造形物が、今なお当時の姿を残したまま現存しているのは、正にキセキといっても良いのではないだろうか。

本書は、三十年以上仏像を修復し続けている著者の「日常」を記した書籍である。普段あまり目にするのではない修復現場の裏側を知ることができる。

山と溪谷社

一八〇〇円

**今月の
おすすめ**
実用書
地図・旅行書

おいでよ、小豆島。

平野公子と島民のみなさん著

二〇一〇年から始まった瀬戸内国際芸術祭は今年で三回目の開催となる。本書は会場の一つでもある小豆島の島民たちが綴った、エッセイ集のような小豆島案内本だ。Uターン組、Uターン組、ネイティブなど、様々な境遇の人々が自らのライフスタイルを綴ったもののため、一般的なガイドブックからは見えてこない、等身大の小豆島の島暮らしについて知ることができる。文章以外にも、イラストレーターのオビカカズミさんによる、島の職人を訪ねたイラストルボがあり、何代にもわたり受け継がれてきた技や日常の仕事の一端が紹介されている。巻末のふろくとして、島の住民によるオススメの宿泊所やお食事所も紹介されているので、実際に島を訪れる際には是非とも参考にしてみたい。

晶文社

一三〇〇円

自分を開く技術

伊藤 壇著 プロのサッカー選手が海外チームへ移籍する場合、契約条件に関する交渉は、代理人に委任することが一般的である。しかし、代理人の全てが世界一と名高いジョルジュ・メンデスのような人物という訳ではない。悪質な者も多く潜むと知る著者は、代理人の力を借りずに所属先を獲得してきた。

本書では十八ヶ国でシーズンを過ごし、「アジアの渡り鳥」という異名を得た著者から、自身を売り込むためのセルフプロデュースの技術を学ぶことができる。彼は今後日本人が海外で活躍するには、そういういった交渉術を磨く必要があると指摘する。異国で対等な契約を結び、それを最後まで相手に遵守させることの難しさを、経験談を通して実感させられた。

伊藤選手は一年以上の在籍更新を行わず、アジア内の他国へ飛ぶ。何故そこまでの縛りを課してまで、移籍に拘るのか。本書に綴られた、彼が見据える未来を知れば、その理由にも納得できるだろう。四十才を迎え未だ現役の彼が、これからどんな扉を開いていくのか、注目したい。

本の雑誌社

一五〇〇円

クミン料理の
発想と組み立て

日沼紀子著

クミン料理だけの本が出るんですよ、と出版社の方からご案内いただいたときは、実を言うとまたニツチな本を出されるなあと思った。だって、クミンである。うっかり買って全く使い切れず、結局捨ててしまっすパイスの代表格、ぐらいの認識だった(実際私の家の冷蔵庫には、一年ほど前に購入し、一回使っただけのクミンが眠っている)。

だが、実際に入荷してきた本を開いてみてびっくり。中東、インド、東南アジア等、世界各地の伝統的なクミン料理はもちろん、発展版として、なんと塩・醤油・味噌・出汁にクミンをプラスし、和食でクミンを楽しむという新しい試みがなされているのである。思わず真剣にレシピを読み込んでしまった。個人的にはイカの和風タルタルと、ゴボウのかき揚げクミン風味がおいしそうですね、早速次の休日に作ってみようと思っています。ぜひ店頭で、お手にとってご覧ください。

誠文堂新光社

二二〇〇円



語学・辞典

悩ましい国語辞典

神永 暁著

曲の「ざわり」とはどの部分か。「号泣」とはどんな様子か。「全然」のあととは否定形で受けなければいけないのか。本書はこのような普段何気なく使っている言葉の本来の意味や移り変わりに、複数の辞書や用例、著者の経験から迫る。当たり前だと思っていたことが実は勘違いだったり、しかしそれも間違いだとは言いつれなかつたりといった日本語の「揺れ」の面白さが詰まっている。

収録されている約二百の「意味や用法が変化している語や読み方の紛らわしい語」それぞれの解説からは、三十六年間辞書編集一筋という著者の、「日本語の規範を重視するべきか寛容を重視するべきか」という葛藤もにじみ出る。その葛藤が、解説をより味わい深いものにしていく。日本語への愛に溢れた一冊である。

時事通信出版局

一六〇〇円

「この英語、どう違う?」

ルーク・タニクリフ著

日本語学習書をお探しのお客様から、お問合せを受けることがよくあるのだが、皆さん日本語が上手で感心してしまう。と同時に、微妙な間違いが気になる時もある。上手だからこそ気になる所もあったところだろうか。特に「こそあど言葉」などの基本的な言葉であるほど気になるように思う。

英語を勉強する時も、難しい言葉を使うことより、基本的な言葉の使い分けができていないの方がより英語ができると思われのではないだろうか。本書は work と job, shop と store など知っていても使い分けが難しい単語の違いを紹介している。見開き構成で短時間で読める上に読みやすい文章だが、内容は興味深いものが多い。著者は「英語 with Take」という月間PV一五〇万を記録したこともある人気英語学習ブログを開設している。ここでも興味深い記事が多いので、本書の内容に興味がある方はまずこちらをご覧になってはいかがでしょうか。

KADOKAWA

一一〇〇円

通訳ガイドというお仕事

鳥崎秀定著

通訳案内士(通称、通訳ガイド)

通訳案内士(通称、通訳ガイド)という資格、名前を知っている人は多いだろう。しかし、実際にどのような業務を行っているかご存知だろうか。外国人に外国語を用いて観光地を案内するのはもちろんだが、それだけではなく、添乗業務や時には企画業務も行う。時間が大幅に遅れてしまった場合には、その後の時間を調整し、観光地の臨時休業に出くわせば、代替案を提示し手配をする。決められたルートや案内だけをずるわけではなく、その旅行を心配しなければならぬことが多々ある。語学力と観光地の知識はもちろんだが、資格を取っただけでは得られない知識・能力は沢山ある。

通訳ガイド資格取得の書籍はあるが、実際の通訳ガイド業務や苦悩、生計を立てられる人の少なさなど、現状を詳しく語っているものは少ない。本書は、著者の経験を基に、通訳ガイドとそれを取り巻く環境を、良い点悪い点両側面から教えてくれる。ユーモラスに語られていて、分かりやすい。

アルク

一六〇〇円

今月の
おすすめ

児童書

しおちゃんとしょうちゃん

ルース・エインズワース作

こうもとさちこ訳・絵

しおちゃんととしょうちゃんの二匹の子ねこは、どちらが高いところまでいけるか競争し、大きなもみの木のでっぺんへ。しかし今度は下りられなくなってしまう。夜になり、さむくておなかも空いて心細くなった二匹は、もみの木の根元に二つの光を見つけます。迎えにきた母ねこの登場で、最後は大きな安心感と温かい気持ちに包まれます。

福音館書店

九〇〇円

うめじいのたんじょうび

かがくいひろし作

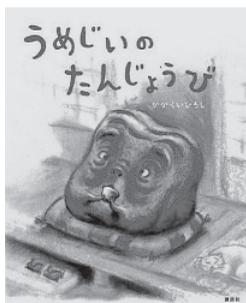
今日はいうめじいのうめじいのたんじょうびです。つげものたちは集まって、うめじいは一体いくつになったのだろうと話し合います。うめじいの話す「うめことば」がわかるつげもの石のじっちゃん

も呼んで、おたんじょうびのおいわいが始まります。

二〇〇九年に逝去した絵本作家かがくいひろしさんの作品です。見ているだけですっばそううめじいと、かわいいつけものたちがにぎやかで楽しい絵本です。

講談社

一四〇〇円



築地市場

絵でみる魚市場の一日

モリナガヨウ作・絵

水産物の取扱い量日本一を誇る築地市場。その一日を追った絵本が出版されました。綿密に取材され、細かく描かれた市場の様子は圧巻です。また豊洲への移転を前に、現在の築地市場の姿を残してくれた貴重な内容となっています。

小峰書店

一五〇〇円

キキに会った人びと

魔女の宅急便 特別編

角野栄子作

佐竹美保画

『魔女の宅急便』シリーズに登場した脇役たちにスポットライトが当たった短編集。おソノさん、コリコ町長、ヨモギさんなど、主人公キキの物語の裏側で織りなされていた人生にもまた出会いと別れが繰り返されていました。それぞれの物語の中でキキの面影のぞきます。

福音館書店

一三〇〇円

ちやあちゃんのむかしばなし

中脇初枝再話 奈路道程絵

四国・高知の南西部はかつて幡多国といい、たくさんのお話が伝えられています。そこで育った著者がその土地のお話をまとめました。

よく知られている世界や日本の昔話と似たような昔話もありますが、その土地だけに伝わる昔話もあり、土地の風土を感じられるかもしれません。

方言で伝わる話を共通語で再話されています。

福音館書店

一六〇〇円

『悲劇の少女アンネ』を読んで

赤阪 愛

アンネ・フランクという名前を少なくとも一度は耳にしたことがあるでしょう。しかしアンネの生涯など詳しく知っている人は意外にも少ないかもしれません。何をかくそう私もその一人です。

この本を読み、最初に思ったことは、アンネ・フランクという少女は何と勇氣ある人間なのでしょう。他人を思いやり、自分がつらくても決して弱音をはかれない。自分の信念を貫き生き抜いた、まさに奇跡としか私には思えないのです。

アンネの残した言葉で「この地球はみんなが仲良く暮らしていくのに決してせますぎないはずです。みんなが神をうやまい、話し合い、とほしい物をわかちあえば、貧乏な人、不幸な人など、ひとりもいなくなるはずです……。」

という言葉に、少なくとも15歳までに考えついているはずですよ。鳥肌が立ちました。私はその年齢の時何を考えていたのでしょうか？ 恥ずかしいです。甘えたこと、自分のことしか考えていなかったと思います。アンネにすごく勇氣をもらった本です。

現在、インターネットなど何でも簡単に便利なものがあふれすぎていて、何か大切なことを忘れている様な、気がします。電車で一列座っている全員が、ずっと下を見て、携帯などの画

面を見ている姿を見てもうとすごく寂しさを覚えます。もし目の前に立った方が気分が悪そうだとか、立っているのがつらそうだとか、全く見えないし、気付けないのですから……。私も席をかわりたくてもなかなか声をかけられなかったのですが、アンネなら必ずそうするでしょうと勇氣を出してアンネに少しでも近付けたら……まねをするのではなく、自分の信念をもつて行動したいです。恥ずかしがらず、家族に対してはもちろんのこと、他人でも思いやりをもつ大切さを教えてくれました。

悲劇の少女アンネのこの本がいかに故久米穰氏の生涯をかけて情熱を注ぎこんで完成されたのかをあとがきで読み、更に深まり、この本に出会えて本当によかったと思いました。できることなら、久米氏にお話を伺いたかったです。

この本は、子供が読書感想文を書くというので購入したのですが、私の方がはいりこんでしまいました。完訳版も是非読みたいと思っておりますので、必ず読みます。

(三十七歳・主婦)

*『悲劇の少女アンネ』（偕成社・シュナーベル著・久米穰編訳・

一二〇〇円）

ATION

<p>丸善 ≡ 名古屋セントラルパーク店 ≡ ☎(052)971-1231 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ ロフト名古屋店 ≡ ☎(052)249-5592 [営業時間] 10時半～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 名古屋店 ≡ ☎(052)589-6321 [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN ≡ 岐阜店 ≡ ☎(058)297-7008 [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN ≡ 四日市店 ≡ ☎(059)359-2340 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 滋賀草津店 ≡ ☎(077)569-5553 [営業時間] 10時～22時</p> <p>MARUZEN ≡ 京都本店 ≡ ☎(075)253-1599 [営業時間] 11時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 京都店 ≡ ☎(075)252-0101 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 奈良店 ≡ ☎(0742)30-1021 [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ≡ 梅田店 ≡ ☎(06)6292-7383 [営業時間] 10時～22時</p>	<p>丸善 ≡ 関西国際空港店 ≡ ☎(072)456-6486 [営業時間] 7時～21時半</p> <p>丸善 ≡ 八尾アリオ店 ≡ ☎(072)990-0291 [営業時間] 10時～21時</p> <p>丸善 ≡ 高島屋大阪店 ≡ ☎(06)6630-6465 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 大阪本店 ≡ ☎(06)4799-1090 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 難波店 ≡ ☎(06)4396-4771 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 千日前店 ≡ ☎(06)6635-5330 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 天満橋店 ≡ ☎(06)6920-3730 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 上本町店 ≡ ☎(06)6771-1005 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 梅田ヒルトンプラザ店 ≡ ☎(06)6343-8444 [営業時間] 11時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 近鉄あべのハルカス店 ≡ ☎(06)6626-2151 [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店 ≡ 高槻店 ≡ ☎(072)686-5300 [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 三宮店 ≡ ☎(078)392-1001 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 西宮店 ≡ ☎(0798)68-6300 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 神戸住吉店 ≡ ☎(078)854-5551 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 芦屋店 ≡ ☎(0797)31-7440 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 三宮駅前店 ≡ ☎(078)252-0777 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 姫路店 ≡ ☎(079)221-8280 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 舞子店 ≡ ☎(078)787-1250 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 神戸さんちか店 ≡ ☎(078)335-2877 [営業時間] 10時～20時</p> <p>丸善 ≡ 岡山シンフォニービル店 ≡ ☎(086)233-4640 [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN ≡ 広島店 ≡ ☎(082)504-6210 [営業時間] 10時～22時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 広島駅前店 ≡ ☎(082)568-3000 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 高松店 ≡ ☎(087)832-0170 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 松山店 ≡ ☎(089)915-0075 [営業時間] 10時～21時</p> <p>MARUZEN ≡ 博多店 ≡ ☎(092)413-5401 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 福岡店 ≡ ☎(092)738-3322 [営業時間] 10時～21時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 大分店 ≡ ☎(097)536-8181 [営業時間] 10時～20時</p> <p>MARUZEN ≡ 天文館店 ≡ ☎(099)239-1221 [営業時間] 10時～20時半</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 鹿児島店 ≡ ☎(099)216-8838 [営業時間] 10時～20時</p> <p>ジュンク堂書店 ≡ 那覇店 ≡ ☎(098)860-7175 [営業時間] 10時～22時</p>
---	--	--	--

INFORM

<p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 札幌店 ＝ ☎(011)223-1911 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ 水戸京成店 ＝ ☎(029)302-5071 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ お茶の水店 ＝ ☎(03)3295-5581 [営業時間] 月～金10時～20時半 土10時～20時 日・祝10時～19時</p>	<p>2月26日 OPEN ! ジュンク堂書店 ＝ 立川高島屋店 ＝ ☎(042)512-9910 [営業時間] 10時～21時</p>
<p>MARUZEN ＝ 札幌北一条店 ＝ ☎(011)232-0222 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>MARUZEN ＝ 丸広百貨店飯能店 ＝ ☎(042)973-1111 [営業時間] 10時～19時</p>	<p>MARUZEN ＝ 多摩センター店 ＝ ☎(042)355-3220 [営業時間] 10時半～21時</p>	<p>丸善 ＝ ラゾーナ川崎店 ＝ ☎(044)520-1869 [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店 ＝ 旭川店 ＝ ☎(0166)26-1120 [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 大宮高島屋店 ＝ ☎(048)640-3111 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ 有明ワンザ店 ＝ ☎(03)5530-5701 [営業時間] 10時～19時半</p>	<p>丸善 ＝ 横浜ポルタ店 ＝ ☎(045)453-6811 [営業時間] 10時～22時</p>
<p>ジュンク堂書店 ＝ 弘前中三店 ＝ ☎(0172)34-3131 [営業時間] 午前10時～ 午後7時</p>	<p>丸善 ＝ 桶川店 ＝ ☎(048)789-0011 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ メトロ・エム後楽園店 ＝ ☎(03)5684-5130 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 藤沢店 ＝ ☎(0466)52-1211 [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店 ＝ 盛岡店 ＝ ☎(019)601-6161 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ 津田沼店 ＝ ☎(047)470-8311 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ 新宿京王店 ＝ ☎(03)5321-4685 [営業時間] 10時～20時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 新潟店 ＝ ☎(025)374-4411 [営業時間] 10時～21時</p>
<p>丸善 ＝ 仙台アエル店 ＝ ☎(022)264-0151 [営業時間] 10時～21時 日・祝10時～20時</p>	<p>丸善 ＝ 舞浜イクスピアリ店 ＝ ☎(047)305-5808 [営業時間] 11時～21時、 土・日・祝10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 池袋本店 ＝ ☎(03)5956-6111 [営業時間] 月～土10時～23時 日・祝10時～22時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 岡島甲府店 ＝ ☎(055)231-0606 [営業時間] 10時～19時</p>
<p>ジュンク堂書店 ＝ 仙台TR店 ＝ ☎(022)265-5656 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 松戸伊勢丹店 ＝ ☎(047)308-5111 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ プレスセンター店 ＝ ☎(03)3502-2600 [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN ＝ 松本店 ＝ ☎(0263)31-8171 [営業時間] 10時～20時</p>
<p>ジュンク堂書店 ＝ 秋田店 ＝ ☎(018)884-1370 [営業時間] 10時～20時</p>	<p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 渋谷店 ＝ ☎(03)5456-2111 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 大泉学園店 ＝ ☎(03)5947-3955 [営業時間] 10時～22時</p>	<p>MARUZEN & ジュンク堂書店 ＝ 新静岡店 ＝ ☎(054)275-2777 [営業時間] 10時～21時</p>
<p>ジュンク堂書店 ＝ 郡山店 ＝ ☎(024)927-0440 [営業時間] 10時～19時</p>	<p>丸善 ＝ 丸の内本店 ＝ ☎(03)5288-8881 [営業時間] 9時～21時</p>	<p>ジュンク堂書店 ＝ 吉祥寺店 ＝ ☎(0422)28-5333 [営業時間] 10時～21時</p>	<p>丸善 ＝ 名古屋本店 ＝ ☎(052)238-0320 [営業時間] 10時～21時</p>
	<p>丸善 ＝ 日本橋店 ＝ ☎(03)6214-2001 [営業時間] 9時半～20時半</p>		<p>ジュンク堂書店 ＝ 名古屋栄店 ＝ ☎(052)212-5360 [営業時間] 10時～20時</p>

営業時間は変更する場合がございます。ご了承ください。
 定休日については、お手数をおかけしますが弊社HPまたは直接各店までお問い合わせ下さい。

ブックブレスター



二月のバレンタインが終わってホッとしている。私事だが、娘二人の友チョコ作りが年々数を増し、作るのも大仕事。簡単で美味しいものというリクエストで試作し、相当余裕をみて用意するも、予定外の先輩から受け取ってき
て追加製作が三回。肩くらい揉んでほしい。

(緒)

投稿募集

☆読者の皆様の投稿を募集しています。最近読まれた本の感想文、本にまつわるエッセイ、など本に関するもの。最近読んでおもしろかった本、感動した本、考えさせられた本を教えてください。四〇〇字×六〇〇字程度で、おすすめの本のタイトル、出版社、住所、氏名、年齢、職業を明記の上、お送り下さい。掲載分には二千円の図書カードを差し上げます。なお、原稿はお返しいたしませんのでご了承ください。

☆尚、本誌掲載と同時に、ホームページにも掲載させていただきます。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―151-15

丸善ジュンク堂書店「書標」編集室係

TEL〇三―15956―6111

いつも「書標」をご愛読いただきましてありがとうございます。本誌定期購読料は以下の通りです。

定期購読料 年間二二〇〇円(送料込)

現金書留もしくは八十二円切手十五枚で

お申し込み先

〒171-0022 東京都豊島区南池袋二―151-15

丸善ジュンク堂書店特急係

TEL〇三―15956―6111

FAX〇三―15956―6100



QRコード

PC・スマートフォンから
<http://www.junkudo.co.jp/>



いつかこんなフェア
をやってみたい

書店の店頭を彩る様々なフェア。切り口ひとつで普段は絶対に隣りに合わない本たちが有機的なつながりを持って並ぶ意外性。「本と人との思いがけない出会い」を演出する仕掛けとして、ブックフェアは欠かせないものです。

しかし実際には苦勞して選んだ本が全然売れなかったり、お客様があまり立ち止まってくれなかったり、心折れることもしばしばです。「正直外した！ 失敗だった」と思わざるを得ないこともあります。それでも懲りずにまたフェアを思いついてしまふのです。

今回のこの欄では、まだ実現できていないけれども「いつかやってみたいフェア」をいくつか紹介させていただきます。

○シリーズ「編集者縛りで本を読む」

【毎回一人の編集者にスポットライトを当て、その方が担当編集した本を一堂に会して並べる。できれば直接編集者にコンタクトをとり、担当本のウラ話（泣く泣くカットした部分など）や一冊の本に込められた思いなどを伺いポップにして掲示】

ここで名前を挙げることは差し控えますが、実は私が個人的に注目している方がたくさんいらっしゃいます。フェア開催の折には是非ご協力頂けたら幸いです。

○シリーズ「秋田を考える」

【人口減少、少子高齢化、婚姻率ワースト、過疎化、自殺率など秋田は様々な問題を抱えている。こういった負の要素を脱却する為にこそ「本の力」が必要されるのではないかと。処方箋となる「知」を詰め込んだ本はたくさんある。毎回ひとつのテーマにしぼり様々なジャンルの本を集めることで「秋田を考える」きっかけを作りたいというフェア。地元の方にも選書応援やリコメンドポップなどを依頼】
なぜ秋田なのかという点、私が働いてい

る店が秋田だからという単純な理由なのですが……。

○cakes 由来本フェア

【ウェブ連載を一冊にまとめて書籍化した本はたくさんある。特にヒット作を連載しているのがcakesというウェブサイト。アドラー心理学の『嫌われる勇氣』（ダイヤモンド社・一五〇〇円）も東田直樹さんの『跳びはねる思考』（イースト・プレス・一三〇〇円）も堀江貴文さんの『ゼロ』（ダイヤモンド社・一四〇〇円）も実はcakes連載。この他たくさん面白い本を出している。cakes連載本を一カ所にまとめるだけでなくcakesサイトとも相互協力したフェアをやってみよう！】

紙幅の都合で今回紹介したのは三つだけですが、思いつきレベルも含めるとまだまだやりたいことがたくさんあります。開催の際には店頭だけでなくホームページやツイッター等でも告知して参りますので、是非当店に足をお運びください。（鈴）

「書標 ほんのしるべ」 第448号

二〇一六年三月五日発行 頒価五十円（本体四十六円）

編集・発行人 工藤 恭孝

発行所 (株)丸善ジュンク堂書店

〒160-0008

東京都新宿区三栄町二十九 ニューワールドビルディング

印刷所 (株)七 旺 社

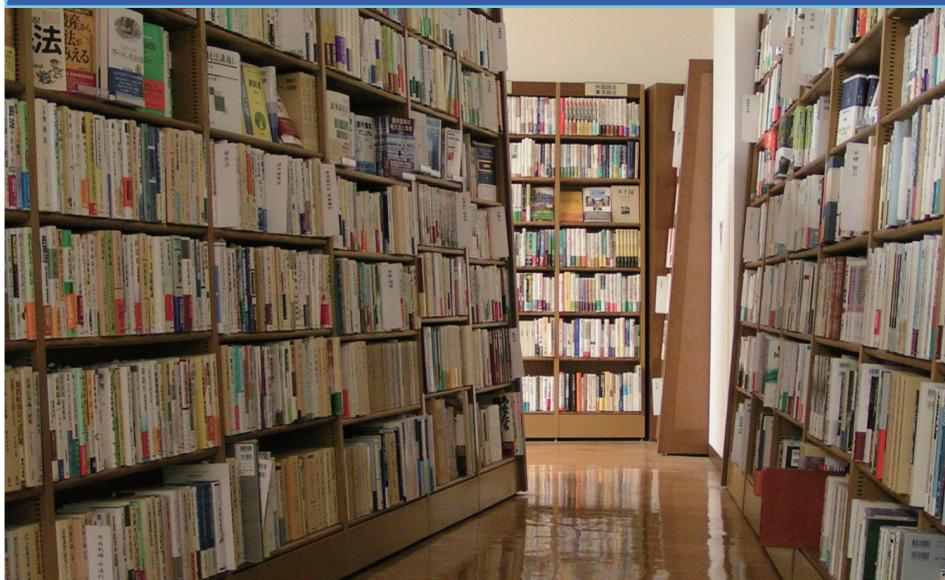
〒653-0013

神戸市長田区一番町二丁目一

お店とつながるネット書店ができました。

新しい世界に出会う喜び。ページをめくるのが待ちきれない思い。
読み終わるのが勿体無い、とっておきの本を読む時間。

私たちは、愚直なまでの品揃えとお客様に寄り添ったサービスで、
本との出会いをゆたかにする、新しいネット書店をつくります。



MARUZEN & JUNKUDO ネットストア

全国の丸善とジュンク堂書店の在庫情報、書棚もひと目で。
ネットを通じてお取り置き&すぐに受け取っていただけます。

送料無料・最短当日出荷

<http://www.junkudo.co.jp/>

ジュンク堂書店
淳久堂書店

<http://www.junkudo.co.jp/>
[e-mail:info@junkudo.co.jp](mailto:info@junkudo.co.jp)